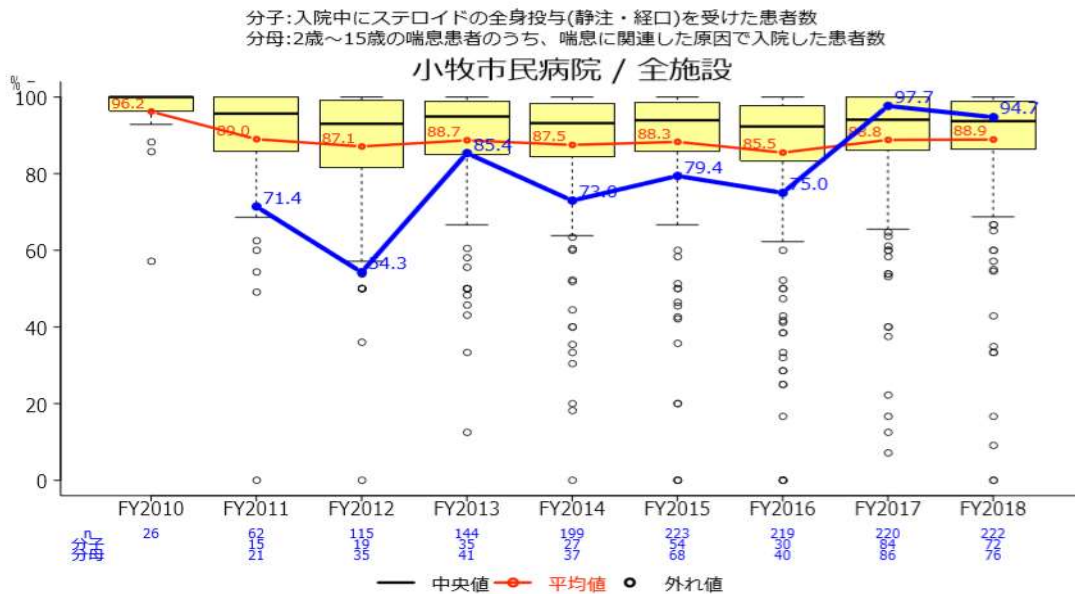


33 入院中にステロイドの経口・静注処方された小児喘息患者の割合

「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2012」において、喘息発作の強度に応じた薬物療法が基本治療（ステップ 1）となります。吸入ステロイドの処方ステップ 2 以上となります。薬物療法は、早期に十分な効果が得られたのちに良好な状態を維持できる必要最少量まで徐々に減量するほうが、患児の生活の質（QOL）の向上のためには望ましいと考えられています。

本指標では、より高い値が望ましいとされています。

一般-33 入院中にステロイドの経口・静注処方された小児喘息患者の割合



全施設平均値との比較

2018年度は全施設平均値を比較しても、投与割合は上回っています。クリニカルパスの変更などはなかったが積極的に投与する傾向があったためと考えます。

2017年度当院データとの比較

2017年度と比較してやや割合は減じたが、依然として全施設平均値を上回っています。ガイドラインに準じた治療を行っているためと考えます。

数値改善に向けた今後の取り組み

現状の管理で特に問題を感じていません。

2017年度評価時の改善策の実施状況と評価

患者の重症度、年齢などを考慮した上で、今後も同様の治療を行っていきます。